特別講演

# 盆栽と樹木再生―世界の盆栽と名木3,000本再生―

## 講演1　今や盆栽は世界に―世界盆栽大会の開催―

加藤初治　世界盆栽友好連盟大会委員長

講師略歴
1958年　埼玉県立浦和高校卒業、蔓青園に入社（父三代目から盆栽の教えを受ける）
1960年　横浜・サンフランシスコ往復客船での指導
1980年　チェコスロバキア、ユーゴスラビア、オランダ、フランス等で指導
1985年　アメリカ盆栽大会でデモンストレイター等
2001年　日本盆栽協同組合理事長に就任　以後、イギリス、ドイツ、アメリカの盆栽大会での展示等により世界普及に尽力
現在まで、国内外の後輩の指導に当たりつつ、NHK「趣味の園芸」、TV 東京「なんでも鑑定団」等で解説者を務める等内外で活躍。

ご紹介を頂きました世界盆栽友好連盟大会委員長の加藤でございます。昨年は、アメリカ、オーストラリア、インドネシアで盆栽の会合に出ており、今日、国内はもとより国際的にも広まっている盆栽についてお話をしようと思います。

### 1 盆栽とその歴史

盆栽は、我が国では1,000年くらい前から箱庭、庭園、枯山水とともに発展してきたもので、　その後、江戸時代には、かなり上流階級の間で流行しましたが、明治期になり、粋人の趣味として大衆化しました。

### 2 盆栽の現状　日本の盆栽と大宮盆栽村

昨今、盆栽は老人の趣味と言われ、金、暇を使っても枯れる難しいものと思われています。しかし、海外で仕事をする人が多い今日、帰国してから「盆栽を知っておけばよかった」と言う人が少なくなく、むしろ国際的に広まっていると言えます。

海外からの方々が、私ども大宮市土呂町の盆栽町にお見えになります。盆栽町は大宮市に市政が施かれた当初からの町で、戦前には30軒ぐらいの盆栽屋さんがあったと言われています。

その契機は大正12年の関東大震災で被災した小石川周辺の盆栽業者が、盆栽に適した関東ローム層の赤土が広く分布するこの地に移転したことにあり、自動車時代を見越して、道幅を広くした碁盤の目のような区画で街づくりをしました。

家の親父は大正14年に9歳で移転してから亡くなるまでこの地で過ごし、町会長を務めました。自分は4代目、息子は5代目になります。

海外との関係では、1976年の米国建国200年祭に当たり、政府から依頼されて、盆栽55杯と水石5点を寄贈したことがあります。

検疫のため隔離栽培を余儀なくされ苦労しましたが、昨年の訪米時に、今でも残って展示されているものを見ました。ところが、その展示館が老朽化し建て替えが必要となり、どうするかという時に、あるご婦人が1億5千万円相当の寄付をされ、2年後ぐらいには完成する運びとのことで、庭園と盆栽を大事にされる方がおられると感心したものです。

また、クリントンアメリカ大統領が1998年に来日の際小渕首相がご案内され、お土産に爺さんの時代からあったエゾマツの盆栽を贈呈しました。その盆栽をエアフォース・ワンに乗せようとしたものの植物検疫のため叶わず、後日の送付となりましたが、今は、ワシントン樹木園で展示されています。

最近は、中国、韓国はもとより、タイ等の東南アジアから来訪客があり、フォークリフトで運ぶような大きいものを買って行かれます。

### 3 盆栽で大切なこと　鑑賞と管理

日本は富士山が世界文化遺産にも登録されたように豊かな自然に恵まれ、その気象条件の悪いところで育った木がもつ個性、古さが盆栽には重要です。

盆栽は自然の美しさを表現するもので、第一に根張り、それから幹立ち、山で生じた幹の枯れ、樹齢といった点を賞でることにより、鉢の中で山野の大木の姿が見え、大自然を感ずることができる点にポイントがあると思います。

盆栽の見方としては、まず、表と裏があり、葉を見るのではなく、木の流れで変化を楽しめる面が良くて、表となります。また、足元の良さとして、自然の中で削られて残りで生きている根張り、周りが枯れて芯が残る幹の風情がいいものです。

要は、人間が作ることができない、自然が作ったものを活かして形作られた姿を観るということだと考えます。

ここに持ってきたゴヨウマツは山取で、足元の根張が素晴らしく、100 年～150 年以上経っているでしょう。また、カレンダーの写真にある高さ 80cm のクロマツは高標高地から採取してきたもので、受け継いで行って欲しいものです。

盆栽は、管理・手入れが良ければ後世に残せるもので、パネル写真の国後（クナシリ）産のエゾ松は、600 年は経っていると思われます。

### 4 世界盆栽大会（2017 年 4 月 27 日～30 日）

40 年位前から世界各地でホテルを借り切って盆栽の普及や討議をしてきましたが、1989 年に大宮市で第 1 回世界盆栽大会が開催され、その後、オリンピックと同様に 5 大陸で 4 年毎に開催されてきています。

2 年後の次回は 8 回目となり、文化庁のご支援を頂いている（一社）日本盆栽協会が誘致し、さいたま市と一体となって開催するもので、日本の良さ、盆栽の良さを広めたいと思っています。

埼玉大宮アリーナは 3 万人収容可能ですが、隣接するコンベンションホールのソニックシティも 7,000 ㎡あり、そこに外国人を集めての会議、盆栽の展示、作り方のデモンストレーション、国際交流等の内容を企画し、参加登録料が 3 万円で、参加者 2,000 人を目途にしたいと思っています。

また、盆栽町の大宮盆栽美術館とともに、近くに 1,200 年以上の歴史をもつ武蔵一之宮氷川神社があり、盆栽の展示を予定していますので、ご来訪をお待ちしています。

自分はそれまで頑張りたいと思っており、今年も熱心に取組んでいる方々がいる南アフリカ、リトアニア、中国への訪問を予定しています。

### 5 福楽氏との出会い

盆栽は、限られた鉢の中で、植替え、施肥、整枝等を人間が補うことにより育てられます。とはいえ、虐げられている面もあり、中には樹勢が弱り困るものもあります。

そのようなものを抱えていた 5 年前に、庭木を治している福楽氏と出会いました。「リバイブ・グリーン」の成分には盆栽や樹木が元気になるのに必要な色々のものが良く入っているようで、効果が直ちに表れました。

福楽さんは、これまで 3,000 本の木を治した写真を残し、症状と原因の究明をされていることから、「リバイブ・グリーン」の盆栽への利用を思いつき、「盆栽パワー」を開発・商品化しました。

500倍液に週2回1分浸けるだけで花の色が良くなり、葉色が黒ずむなど、木の感じが 1〜2 ヶ月で変わってくるのが分かります。

これからも福楽さんと一緒に、庭園樹の樹勢回復とともに、庭園に置かれている盆栽を元気にすべく頑張りたいと思います。

## 6 盆栽会の今後

盆栽は、日本の伝統文化として自負しています。

歴代の（一社）日本盆栽協会会長には吉田茂氏、岸信介氏、福田赳夫氏等の方々が就任しておられます。

協会では、長年、国営の盆栽展示施設を期待してきたところ、親父が懇意にして頂いた野呂田芳成氏のご尽力により、国営昭和記念公園の日本庭園の一部に、盆栽展示場「盆栽苑」が平成 16 年に設けられました。

また、今、会長は河野洋平氏で、世界盆栽大会に向けて、中国や韓国からのツアー参加の働きかけをお願いしているところです。

引き続き様々な取組みを展開したいと思いますが、後継の若い方が参入されないのでは続かず困るので、自分は、現在、韓国とアメリカからの弟子2人を養成しています。

これからからも盆栽の良さ、植物の良さの理解を積極的に伝えていきたいと考えています。

御清聴、ありがとうございました。

（本稿は、講演録音から本山（監事）が整理し、講演者の校閲を頂いたものです。）